

内水氾濫監視システムは、豪雨時に広範囲で発生する湛水被害について、現地へ行くことなく 安全かつ迅速に把握し、的確な初動対応につなげます。

被害の多くは、水深 1.0m程度ですが、命に関わる被害を招く恐れがあります。

- 僅かな水深でも車の立往生や歩行者の通行阻害を招きます！



被災時の避難所や道路の安全性などを確認し、“減災”を支援します。

- 安全な避難所、道路の確認に。



- 通行止め区域の決定の根拠に。



災害発生時にユーザーパソコンから各地区での湛水状況をリアルタイムで把握することができます。

システムの特徴

- LP (レーザープロファイラ) データを活用し、5mメッシュごとの水深想定が可能
- ユーザーパソコンがインターネットに接続していればGoogle Map上へ図示可能
- 水位センサーで取得するデータにより、刻々と変化する湛水区域を図示可能
- 水位センサーは低コストで水質の影響を受けにくい圧力型センサーを採用
- モバイル通信を活用し、通信費用(機器の購入・設置、通信費等)を低減
- センサーを使わず、任意の湛水位想定マップとしての簡易な活用も可能

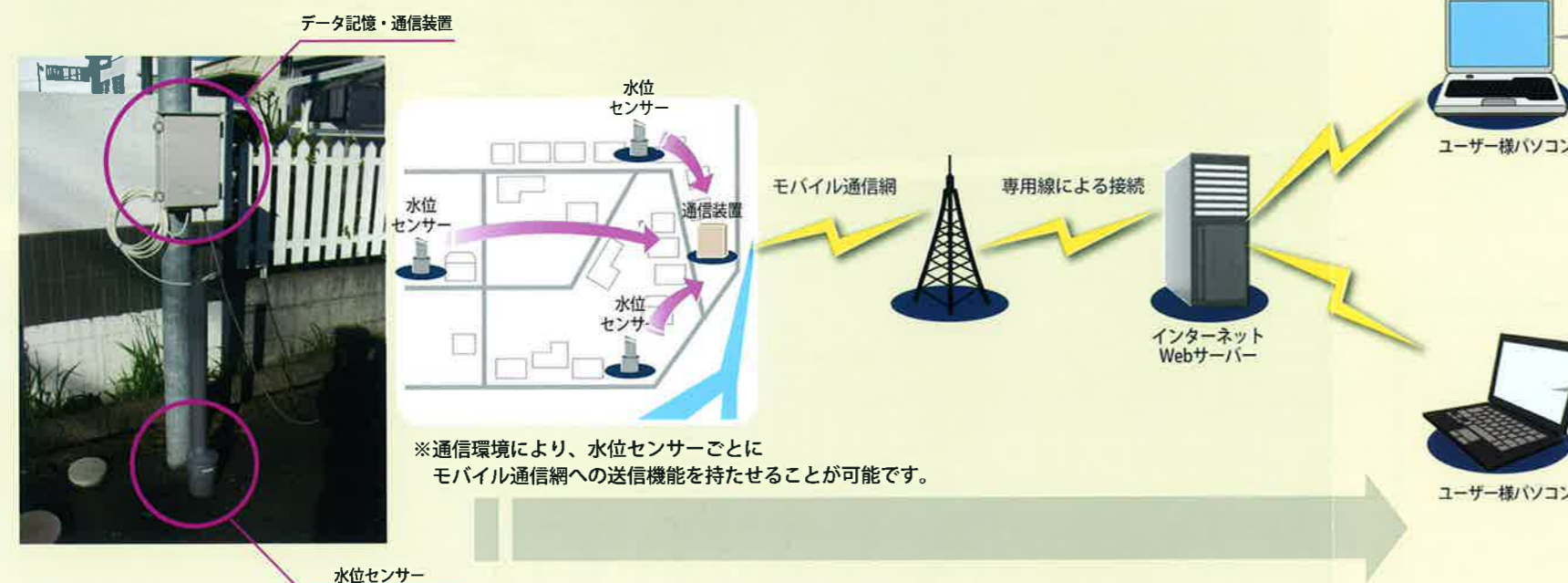
point

システムの活用シーン

内水氾濫監視システム	主な活用シーン		シーン別の利用目的
	災害時	湛水区域、湛水位の監視	的確な現状把握・情報提供 等
平常時	湛水区域、湛水位の想定	減災対策検討、防災教育 等	

■ 内水氾濫監視システムの基本構成

- 地区内に設置した複数の水位センサーで計測したデータを無線通信により親機に集約し、モバイル通信を活用して送信します。



■ 湛水区域、湛水位の表示イメージ (Google Map上への表示)

